

平成 25 年度第 2 回 小笠原諸島世界自然遺産 地域連絡会議 議事要旨（抜粋）

<ネズミ・オオコウモリ対策について>

- 委員：島内でネズミがかなり増えている。今後、ネズミ駆除もきちんとした取り決めを設けて実施する必要がある。また、オオコウモリの農作物の被害は深刻である。村から対策事業の報告があったが、保護する一方で、人間の生活が脅かされるアンバランスな状態である。オオコウモリはねぐらの場所がわかっており、追跡データもあるということなので、コウモリが集落に出る手前にバッファゾーンとしてのエサ場を作ってはどうか。昔は山に食べ物があったから集落地まで出てこなかったが、コウモリが増えた結果、エサが不足し農作物に被害を与えることになっている。
- 委員：短期計画・長期計画を立て、即行動を起こさねばならない。ここで議論しても、実行に移さねば意味がない。バランスをとってやっていかないと、なんのために保護するのかかわからない。
- オブザーバ：瀬堀委員の意見を踏まえ、地域連絡会議としての対応を科学委員会に報告いただきたい。コウモリに関しての会合は、当初は農協や農業センターにも参加いただいていたが、今は行政の連絡会の性格が強くなってしまい、2年間あまり進展がない状態である。今後、地域連絡会議で瀬堀委員のようにご提案いただける方に加入していただきながら進めていくように会の進め方を変えていってほしい。また、コウモリとハトはそれぞれ独立した会議で議論すべきである。
- 委員：コウモリの食害で特に柑橘農家が大打撃を受けており、生産意欲をそがれる切実な問題である。緊急性をもって対策してほしい。ご意見いただいたように、ネットで保護するだけでなくエサ場を作ることも方策の一つである。
- 委員：外来種対策は、供給源対策が気になる。緊急対応で捕獲に注力されるのはわかるが、供給源を絶たなければ現場が疲弊するばかりである。父島・母島におけるネズミやアノール対策も同時並行で進めていく必要がある。「長期的課題」として先送りにはしているようにしか聞こえない。
- 事務局（環境省）：有人島のネズミ対策については、科学委員会でも重要テーマとして認識されており、提案がある予定である。コウモリとネズミの話題は、科学委員会の議題に加えることとする。解決策は見いだせていないが、まず議論する場を設ける予定である。コウモリと農業者との軋轢については、解消する必要性は認識しており、コウモリに関する連絡会も立ち上げた。関係機関が集まり、全体の枠組みについて次年度開け早々に議論すべき準備をしている。コウモリは、保護の観点からだけでなく、実際に被害を受けている方との向き合い方についても、連絡会で枠組みを作り早急に対策を進めたい。
- 事務局（小笠原村）：コウモリ連絡会の中で、防除事業の体系を整理し詰めていきたい。